



発行
国立市公民館
〒186-0004
国立市中1-15-1
☎ 042-572-5141
FAX 042-573-0480
休館日：毎週月曜日



地震だ！



そのときに備えて

～公民館の防災訓練にご参加ください～



とき 3月23日(土)朝10時～昼12時半ごろ

集合 公民館 1階市民交流ロビー

東日本大震災から2年。大地震や災害への備えを、改めて見直してみませんか。日ごろ公民館を利用している方や周辺地域の方々と防災意識の向上とつながりを強めるため、3つの体験プログラムを行います。申込み不要です。ぜひお気軽にご参加ください。
(協力 公民館利用者連絡会、くにたち地域外国人のための防災連絡会)



災害時は、病院にたどり着くことも困難が予想されます。そんなとき応急手当ができたなら、その後の経過にも大きく影響してくるかもしれません。
国立赤十字奉仕団の方々に、三角巾を使った腕・ひざ・足首の応急手当を習います(定員50名)。

**三角巾と
ビニール袋で
とっさの手当**
～応急手当を学ぼう～

※雨天の際は内容を変更する場合があります。

都市における地震では、火災をいかに防ぐことができるかが被害の状況を大きく左右するといわれています。そこで、立川消防署国立出張所にご協力いただき、初期消火訓練と起震車による地震体験を行います。
いざというときに備えて、震災発生直後の行動を考える機会にしたいと思います。

**公民館に
起震車が
やってくる！**
～消火訓練と地震体験～

■避難訓練も行います！
当日は朝10時ごろから、避難訓練を行います。図書室やロビー、各会場をご利用の方も、ぜひご参加ください。

非常時に備えてアルファ米を用意している方も多いかと思いますが、でも、実際に食べてみた方は意外と少ないのではないのでしょうか。
非常時の料理を研究している市民の森岡三保子さんに、おいしく工夫する知恵をお聞きます。今回は「アルファ米を使った五目ずし」と、「ずわいガニ缶詰でできるお吸い物」を作って試食します(定員50名)。

**簡単！
おいしい！
防災食のコツ**
～作って
食べよう防災食～



震度7を体感しよう

講座「ポスト3・11社会のカタチ私たちのオモイ」

——これまで・これから

第2回 報告

「被災地の見えざる
ジェンダー問題と
その支援」

竹信三恵子さんに被災地におけるジェンダー問題について、多くの事例を紹介していただきながらお話を伺いました。

お話の要点と参加者の皆さんのコメントを紹介します。

■被災地や避難所の状況

避難所では授乳や着替え場所の確保、炊事分担の問題がありました。また、自宅で生活を続けている人々の中には、食事やケアを一手に担ったり、DVにおびえる女性たちがいました。

参加者のコメントでも、「報道では分からない、表に出てこない話を聞けて参考になった」「男女共同参画が日本ではほとんどシステマ化していないと実感した」と、なかなか届いてこない問題が被災地で起こっていたことを知る機会となりました。

避難所や被災地で起きているジェンダー問題は、平時からのシステマ構築ができていなかったことだけでなく、つらいことを「つらい」と言える場のないつらさもあつたと竹信さんは指摘されました。

■女性支援が果たした役割

しかし今回の震災では、女性支援の必要性が注目を集めました。

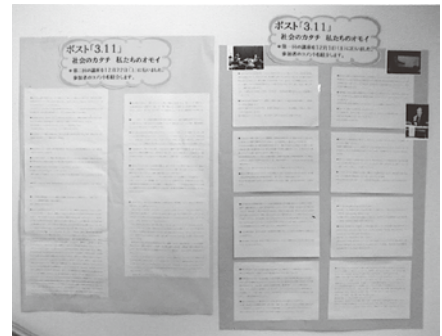
避難所での女性相談、マッサージや一緒に手芸をしながら実情の聞き取りが行われたことが紹介され、女性支援団体のネットワーク作りと情報交換も重要な役割を果たすことが説明されました。

■平時からしておくこと

今後の震災に対して私たちが平時からしておかなければいけないことについて、竹信さんから提案がありました。

その一つは、女性有識者をリストアップし、これをもとに自治体の防災会議への女性の参加を求めていくことや、独自に女性防災会議を立ち上げることです。これが、災害が起きたとき、女性固有のニーズや支援を求めるためにも役立つ

参加者のコメントを館内に掲示中



つとのことです。

「仕組みをつくっておく、という訓練準備の必要性や大切さを知ることができた」という感想もありました。

■参加者の感想

● 今回の震災から学ぶこと、今後につなぐべきことの多さ、多様さに気が重くなった。

● 日々の生活の中で少数者の尊重という体制ができていいるかが問われているのかと感じた。

● さらに弱者である、しょうがいしゃや子どもはどのように過ごしたのか気になった。

● 女性防災会議、国立でも、ぜひ立ち上げたいです。

● 「竹信さんのプロフィール」
和光大学教授、東日本大震災女性支援ネットワーク共同代表

第6回 今後の大地震にどう備えるか
～立川断層と防災のコミュニティづくり～

【第1部】「立川断層の実際」
講師 山崎 晴雄 (首都大学東京)
国立市内を横切る活断層である立川断層について正しく理解し、備えるべきことは何かを考えます。

【第2部】「防災への取組み」
講師 国立市役所防災課課長
災害発生時の行動や避難所と避難場所の違い、家族との連絡方法、備蓄品などについて説明します。

【第3部】「“自助”と“共助”について」
地震発生時の曜日、時間、天気などを想定し、各自の行動をシミュレーションするとともに、地域ごとに「地域としてできることは何か」などを話し合います。

とき 3月16日(土) 昼2時～5時
ところ 公民館 地下ホール 定員 50名(先着順)

第7回 【シンポジウム】
災害ボランティアの課題と可能性
～くにたち市民にできること～

講演 野元 弘幸 (首都大学東京)
金子 健太郎 (国立市社会福祉協議会)
事例発表 都立第五商業高等学校
ボランティア部の皆さん
手づくりボランティアグループの皆さん

連続講座・最終回になる第7回は、被災地の復興に向けてボランティアが果たした役割を捉えなおし、復興とまた次に起こる災害に対して、共に支えあい励ましあえるような市民の知恵を出し合いたいと思います。さまざまなボランティア活動を推進してきた関係者をお招きします。国立に暮らす私たちができること、一緒に考えてみませんか。

とき 3月30日(土) 昼2時～5時
ところ 公民館 地下ホール 定員 50名(先着順)
*連続講座の申込先 公民館 ☎ (572) 5141

第3回 報告

「私たちの社会とエネルギー」

震災後、原子力発電の影響からエネルギーについて考える機会が増えたかと思えます。そこで第3回は、相川高信さんに日本のエネルギーの歴史を振り返りながら、これからのエネルギーと暮らしについて海外の事例、被災地での取り組みも交えながらお話いただきました。

■需要と供給

私たちがどのくらい、どのようにエネルギーを使ってきたかという歴史と、電力会社の変遷について整理しました。

■熱↓電気↓熱!?

家庭でエネルギーを使うとき、暖房や給湯など熱として使うものが6割だといえます。私たちは火力や原子力など熱で発電したものを電気に変換し運搬し、熱に戻し

て使っています。変換することで生じるエネルギーのロス(浪費)をいかに減らすかが課題です。参加者からも「節電と、エネルギーの熱ロスをいかに少なくするかの努力は今後、個人・企業が最も力点を置くことではないか」とのコメントがありました。

■人間の

エネルギー生産量は…?

人間も一日に食べるカロリーから計算すると一秒に100Wのエネルギーを作り出しているというお話がありました。これには参加者も「目からウロコ」。現代日本人一人当たりの1秒間の平均エネルギー供給量は5500W、エネルギー消費量は3700W。差引き



クイズを交えて解説する相川さん

講座「ポスト3・11社会のカタチ私たちのオモイ」

——これまで・これから

800Wは使われていないそうです。「このムダを減らすことが、環境への負荷を減らすことになる」と理解した」との感想がありました。

■海外の事例より

ドイツやスイスなど海外の政策や取組の事例が紹介されました。人が出している熱などを利用して、その熱を外に逃がさず活用することで暖房がない家があり、Zero-Energy-Building(エネルギーを使わない建物)が登場しているそうです。参加者は驚き感激する人がいる一方、気候などそれぞれの国のおかれた条件の違いが大きいのではないかとの声もありました。

■参加者の感想

● エネルギーを使う側と作る側、両面を考えていくことが必要だ。

● 自分たち一人ひとりが、その背景や歴史を知り、どんな社会になって欲しいかよく考え行動に移していきたいです。

「相川さんのプロフィール」

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 環境・エネルギー部 副主任研究員

*第1回の講演要旨は2月号に掲載しています。ご覧ください。

シネボックス 公民館シネマトーク
《シリーズ「ニッポンの記録映画」vol.36》
『放射線を浴びた [X年後]』
2012年 カラー 83分 DVD

製作 南海放送 監督 伊東英朗
1954年アメリカが行った水爆実験によって、日本のマグロ漁船が被曝した「第五福竜丸事件」。その陰で、実は多くの日本の漁船が同じように被曝していた——。8年にわたる追跡取材で、次々に明らかになる闇に葬られた真実。そして、たどり着いた“機密文書”の存在とは。昨年1月に放送され反響を呼んだTVドキュメンタリーに、新たな映像を加え映画化した衝撃作。

《シネマトーク》「放射線を浴びたX年後を考える」
お話 伊東 英朗 (映画監督)

とき 3月24日(日) 昼2時~5時
ところ 公民館 地下ホール 定員 85名(当日先着順)
*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

連続講座実施中!
ポスト「3.11」
社会のカタチ 私たちのオモイ

- 第1回 12月1日実施
「3.11から歩き、見て、考えたこと」
赤坂 憲雄 (学習院大学、福島県立博物館館長)
 - 第2回 12月22日実施
「被災地の見えざるジェンダー問題とその支援」
竹信 三恵子 *右頁上段参照
 - 第3回 1月19日実施
「私たちの社会とエネルギー」
相川 高信 *上段参照
 - 第4回 2月9日実施
「放射能の健康リスクと対策を理解する」
島田 義也(独立行政法人放射線医学総合研究所)
 - 第5回 2月24日実施
「CINEVOX&シネマトーク『無常素描』」
大宮 浩一 (映画監督)
- *残すところ後2回 参加者募集中!

学びのコミュニティを支援する取り組み

地域に飛び出す公民館



昨年度に引き続き、公民館から飛び出して南部地域、北地域で講座を開催しています。今年度は地域の団体と連携して、新たに子ども向け事業を行いました。

例えば、南市民プラザでは「国立★ヤッホーひろば」と万華鏡作り講座を実施しました(写真)。北福祉館では北福祉館運営委員会と北二丁目みどり会、第四小学校の協力を得て、盆太鼓の体験講座を開催中です。

文化祭で広がる交流の輪

秋の市民文化祭は、市民が主体となって日ごろの文化芸術活動を発表する場です。今年度は、新たに若い皆さんの団体も加わりました。

事前に開催した文化祭プレ展示では、参加団体の皆さんが交替で来場者を案内し、展示に活気が出るとともに、団体間の交流も深まりました。



より広がりのある公民館情報の発信

アクセスしやすい

サークル情報



公民館の各階の階段の壁に、市内で活動している団体を紹介するコーナーを作りました。「サークル活動に参加したい」、「どんな団体があるのか知りたい」という方にご案内しています。紹介シートを一覧にしたファイルを、2階事務室でも閲覧できます。

「活動を紹介したい」、「メンバーを募集したい」というグループを引き続き募集しています。公民館までお問合せください。

「公民館だより」を

ホームページに掲載!

毎月5日発行の「公民館だより」を、市のホームページでも見られるようにしました。バックナンバーも掲載しています。

「国立市公式ホームページ」のトップページ右側のメニューから、公民館のページにアクセスできます。

資料にアクセスしやすい公民館図書室の充実

参考図書コーナーが

リニューアル!

公民館図書室では、講座に参加している方や講座に興味のある方が学びを深められるように、参考図書コーナーを設けています。

今年度は、より多くの関連図書を、見やすくなるように工夫しました。また、地域の図書を見つけやすくするため、新たに「市民の本」と「くにたちの作家・山口瞳」の棚も設置しました。今後もより一層利用しやすくなるよう、整備していきたいと思えます。



みんなで学ぶ・みんながいきる公民館 —24年度重点目標への取り組み—

公民館では、平成24年度当初に重点的に取り組む5つの目標を設定し、さまざまな試みを始めました。その実施内容の一部を報告します。

地域課題・生活課題へ 新しいアプローチの試行

地域の「絆」をつむぐ



超高齢社会に向かう現在、関係が希薄化した地域に「つながり」が取り戻されることが期待されています。そこで、講座「高齢社会を支える地域の『絆』づくり」を、高齢者支援課と共催で始めました。

高齢者支援課が把握している市内の具体的な事例をもとに、そこに隠されている課題に対して同じ地域に暮らす私たちはどう解決していくことができるのか、グループで話し合いました。

具体的な事例の提示があったことで、よりリアリティのある話し合いができ、また自分に引きつけて考える機会になりました。地域の「絆」づくりに向けて、継続して実施していきます。

より快適に、利用しやすい 施設の環境整備

会場申込みに市民の声を反映

公民館では、会場を利用しやすくするために会場調整会を毎月開催しています。

利用者アンケートや話し合いを行い、昨年4月に以下の変更を行いました。

年配の方や小さいお子さんをお持ちの方からの声を反映し、調整会の開催時間を土曜の朝に変更。また、調整終了後すぐに本申込手続きができるようにしました。その結果手続が効率化され、参加団体も大幅に増えました。

働きざかりの男性が学ぶ！

公民館では、これまであまり積極的に公民館活動に参加してこなかった中間年齢層（20～50代）の男性に向けて、「男性のライフとワークの見直し講座」（全6回）を実施しています。

このシリーズは2年目ですが、20～40代の男性を中心に自らの生き方を見つめる学びが広がっています。「イクメン」ブームもありますが、男性自身も仕事だけではなく、家庭や地域、生活に目を向ける時代になりました。

来年度も引き続き、角度を変えながら男性対象の講座を開催する予定です。

介護の困難を超えてつながる

講座「介護短歌、はじめませんか」では、介護する人、される人がその体験や思いや気持ちを短歌の中に表現し、それを皆さんと話しながら共有しました。終了後は作品展を行い、地域の方にも思いを共有してもらいました。

高齢化や孤独死などが話題になる社会で、介護に関わる人の小さな支えになって、地域の中に思いやりの輪が広がればと思います。

市民と一緒に緑化作業

市民ボランティアの協力のもと、昨年4月から公民館敷地内の緑の整備を進めています。植木、グリーンカーテンなどの手入れに加え、ボランティアの皆さんの提案でプランターに花を植えるなどの作業も行っています。

作業開始から約1年がたち、少しずつきれいになってきました。現在、春に向けて準備をすすめています。

これからも引き続き月2、3回のペースで作業をしていきます。



エネルギーと原発を考える

再生可能エネルギーと省エネの可能性

大震災後、エネルギーについて身近に考える人が増えたのではないのでしょうか。とりわけ原子力発電については健康への被害の心配から注目されています。しかし原発に賛成か反対かと2極化して議論が進められ、どう判断すればいいのか分かりづらくなっています。

地震国での原発の危険性、原発の最終処理の問題、再生可能エネルギーの可能性…。考えなくてはいけないさまざまな論点があります。震災から2年たつ今、もう一度エネルギーと原発について情報を整理し、これからの暮らしについて一緒に考えていきましょう。

講師 **橋川 武郎** (一橋大学)

とき 3月28日(木)夜7時~9時

ところ 公民館 地下ホール

定員 50名(先着順)

申込先 3月7日(木)朝9時~
公民館 ☎ (572) 5141



版画をつくってみよう!

—プレス機体験ワークショップ—

プレス機を使って、本格的な版画を体験してみませんか? 紙の版(ドライポイントプレート)とプレス機を使って版画を作ります。紙の版に、線を描いたり、切ったり、はがしたりして、インクを詰めて刷ると、銅版画のような作品ができて上がります。時間内にいつでも参加できます。

講師 **山本 佳奈枝** (銅版画家)

坂田 季代子 (絵本作家、銅版画家)

とき 4月13日(土)昼1時~4時
(受付は3時まで)

ところ 公民館 1階市民交流ロビー

対象 小学生以上の方

定員 20名程度(当日先着順)

費用 200円

持ち物 エプロン、ハガキサイズぐらいの下絵(なくても可)



※所要時間は1時間程度です。事前申込み不要。ただし、定員を超えた場合は、締切らせていただきます。

同時開催!

「はじめての銅版画」展

若者のための創作講座「はじめての銅版画—Etching Work Shop—」(2月~3月、全4回)の作品展を行います。にぎやかな雰囲気の中で、一人ひとり個性豊かな作品ができました。ぜひ見に来てください!

とき 4月13日(土)朝9時~21日(日)夕5時

ところ 公民館 1階市民交流ロビー

問合せ 公民館 ☎ (572) 5141

〈図書室のつどい〉

旅を生きる人びと

バックパッカーの人類学

お話し **大野 哲也** (桐蔭横浜大学)

バックパッカーと聞くと、低予算で自由気ままに旅行する人をイメージするかもしれません。しかし、訪れる国によっては伝染病、紛争地域におけるテロなどのさまざまなリスクを覚悟の上で、各々の人生における自分探しの旅をする人もいます。

自らも五大陸を自転車で走破し、5年にわたるバックパッカーの経験を持つ大野さんは、著書の中で「バックパッキングによって多様なアイデンティティが生み出され、それによって人びとの生も多様化されていく。…多様に分岐する生のプロセスの総体は、すべてバックパッカー個々人が主体的かつ身体的に創造したもの」だと著しています。

世界を旅するバックパッカーに自分を重ねながら、人の生き方やバックパッキングが生み出すものについて、一緒に考えてみませんか。

〈大野さんの本〉『旅を生きる人びと』(世界思想社)

とき 3月30日(土)朝10時~12時

ところ 公民館 3階講座室 *ご自由においでください。

〈公民館・未来夜話〉

地域コラボレーションの時代

「未来の公民館を創る」シンポジウム

今、コミュニティづくりのために、市民が連携して地域課題の解決に取り組むことが求められています。

そのために、公民館はどんな役割が果たせるのか。公民館の政策づくりに関わる伊藤さんを交え、まちづくりに携わる市民の皆さんのお話から一緒に考えます。

●第1部 講演「地域コラボレーションの時代」

伊藤 **学司** (文部科学省生涯学習政策局
社会教育課長)

●第2部 シンポジウム「未来の公民館を創る人たち」

事例①「個人の可能性を引き出す」

平岡 恵美子 (「はたらく美術大学」参加者)

事例②「企画とチームを育てる」

間瀬 英一郎 (国立市 NPO 育成支援事業協議会)

事例③「共生のコミュニティをつくる」

山崎 由紀子 (外国人のための防災連絡会)

事例④「高齢化問題に挑戦する」

長藤 哲夫 (「くにたち地域活動入門」参加者)

とき 3月12日(火)

夜7時15分~9時半

ところ 公民館 地下ホール

定員 60名*ご自由においでください。

*この講座は公民館運営審議会委員との共同企画です。



モーツァルト・レクイエム募集
くにたち市民合唱団では、モーツァルト「レクイエム」を歌いたい方を募集中です。ゆつくり丁寧

親子リトミック会員募集KRP
1歳半〜3歳児とお母さん。親子リトミックで心と身体を解放し

ピアノの音に触れながら、一緒に親子でリトミックを始めてみませんか。平成22年4月2日〜24

初心者 ウクレレ 参加者募集
ウクレレをポロロンと弾きながら歌えたら、ステキですね!

3月12日の社会教育学習会「地域コラボレーションの時代」について。文部科学省・伊藤学司氏の講演と公民館で活動している方々の事例発表を予定。

ひるば (8ページにもあります)



暖かな日差しの中で 一谷保天満宮 撮影 二宮 巍 さん (西)

〈親子で遊ぼう・考えよう〉

ぷにゅぷにゅ 運動工作あそび

小麦粉やビニール袋など、家庭にあるものを使っていろいろな遊びに挑戦します! 小麦粉では粘土、片栗粉では手でつかめる不思議な液体を作ります。

講師 山田 修平 (NPO法人東京学芸大学子ども未来研究所)

とき 3月16日(土)朝10時~12時
ところ 公民館 地下ホール
対象 子ども(3歳~小学生)と保護者
定員 20組(先着順)
持ち物 タオル、飲み物、(汚れが気になる方は)エプロン
申込先 3月6日(水)朝9時~ 公民館 ☎(572) 5141



水泳同好会会員募集

厳しかった冬もそろそろ終わり。運動不足気味の体をプールでリフレッシュしてみませんか。レベル別に公認コーチが親切に指導します。初心者歓迎。体験可。

北卓球同好会会員募集

明るく楽しく卓球をする会です。先生はいませんが、上手な人がやさしく教えてくれます。お待ちしています。

還暦野球の選手募集

市内唯一の還暦軟式野球チームです。野球をこよなく愛し、健康の増進を図り楽しく野球したい方を募集中。応募者は、まず練習にご参加を。国立フレンド・シニア

リトミック さくらんぼリズム

カラオケサークル花のゆりかご
楽しく新曲を練習しています。発声で声の響き、高低音の幅を作り、上手に楽しくをモットーに発表会にも出ます。講師は林こずえさん。参加をお待ちしています。

公民館運営審議会報告
2月12日(火) 第4回定例会を開催。委員13名、館長、職員2名が出席。傍聴2名。

公民館運営審議会報告

公民館だより編集研究委員会「ポスト3・11」の講演要旨の記事がよかった。編集後記がほしい等、種々の意見が出た。

公民館だより編集研究委員会「ポスト3・11」の講演要旨の記事がよかった。編集後記がほしい等、種々の意見が出た。

公民館だより編集研究委員会「ポスト3・11」の講演要旨の記事がよかった。編集後記がほしい等、種々の意見が出た。

公民館だより編集研究委員会「ポスト3・11」の講演要旨の記事がよかった。編集後記がほしい等、種々の意見が出た。

公民館だより編集研究委員会「ポスト3・11」の講演要旨の記事がよかった。編集後記がほしい等、種々の意見が出た。

ひろば

(7ページにもあります)

第176回くいしんぼクラブ マリアさんのロシア料理

お得意のロシアの家庭料理を教えてください。材料費800円。ゴミ袋とふきんをご持参ください。
日時 3月16日(土) 昼1時～
場所 福祉会館 3階料理講習室
連絡先 八宮(571) 1007

公民館図書室 休室のおしらせ

3月4日(月)～7日(木)
本の点検・整理のため休室します。

硬式テニス春季大会

男単・複 A B、女単・複 A B、男・女壮年複、家族混合、男女小中学生単、詳細はホームページ参照。締切3月21日(木)。申込先 サライズ(580) 2441
日時 4月13日(土)～6月2日(日)
場所 広場コート
連絡先 平田(574) 0534

春季ソフトテニス市民大会

参加資格・市内在住、在勤、在クラブ。参加費500円(高校生200円)。中学男女3月24日(雨)31日、一般男女、シニア6月9日(雨)16日。申込締切は中学生3月9日(土)、一般男女シニア5月25日(土)。
場所 広場テニスコート
連絡先 加藤(572) 4728

やっぱり節電!

暮らしを守るための節電&エコアイデアを持ち寄りましょう。ゲストスピーカーによる被災地の現状のお話やソーラーパネル体験もあります。資料代500円。
日時 3月10日(日) 昼2時～3時半
場所 公民館 3階講座室
連絡先 スペースF(573) 4010

デジタル写真写真展

デジタルカメラの中高年の写真クラブです。昭和記念公園など近隣の景勝地・催し物などを撮影しています。写真展を行いますので、ご覧ください。
日時 3月10日(日)～17日(日)
場所 公民館 1階ロビー
連絡先 永野(090) 423 3927

マトリョーシカの会コンサート

今回のゲストは歌手の山之内重美さんです。ゲスト演奏のほか、参加者全員でロシアの歌を歌います。見やすいカナ付きの楽譜あります。資料代500円。
日時 3月31日(日) 昼3時～4時半
場所 公民館 地下ホール
連絡先 大貫(572) 5214

ジャイアンツアカデミーくにたち親子野球教室参加者募集

幼児と小学1・2年生を対象とした親子野球教室を開催。参加費無料。定員は親子60組。3月11日締切。詳細はお問合せください。
日時 3月17日(日) 朝10時～11時半
場所 東京女子体育大学
連絡先 伊藤(080) 1458

〈サークル訪問500〉 ちえのわ

長し合う豊かな生活の実現を目標にしています。

2010年5月～12月まで開かれた公民館事業「女性の生きかたを考える」で勉強された方々が、講座終了直後に作った自主グループです。公民館保育室に子どもをあずけながら、親子共に成長を続けている30代の若いお母さんたちで、現在のメンバーは7人です。名前の由来は、講師の中澤智恵さんのお名前と、皆で「知恵」を出し合う「輪」と「和」の思いから「ちえのわ」になりました。1月半ばの金曜日、公民館実習室で皆さんにお話を伺いました。

「生き方の幅を広げ、互いに成長を取り上げました。」
「AEDの使い方」「救急法訓練」などを取り上げました。
多方面の勉強を続け、頼もしくてさらさらと輝いている女性たち。若い世代の人たちが、問題意識を持ち真剣に生活をしている姿を見て、未来の明るさを予感したすてきな時間になりました。

30数年前、息子たちが公民館保育室にお世話になり、「婦人体操の会」に通ったことを思い出しながらの取材でした。
お問い合わせは公民館へ。

〈文・写真 小原正子〉



真剣な話題も和やかに